

恵まれませんでしたが。ただ、2011年に朱雀大路緑地工房を調査、平城京の発掘調査開始以来、40年以上不明であった京内官営鍛冶工房の実態解明に一役買うことができたのは、実に幸運だったと思います。

このような発掘人生も、関係者の皆様方に支えていただいたお陰であり、ここに改めて深く感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

(埋蔵文化財センター長 小池 伸彦)

🌀 思い出深い発掘の日々

私は、1987年の12月に入所、平城宮跡発掘調査部考古第一調査室に配属されました。思えば、私の研究所人生は発掘三昧だったように思います。

入所当時は、そごうデパート建設予定地の発掘調査が峠にさしかかる頃でした。そこは長屋王邸跡で、冬の新人研修と翌年度最初の夏現場班員として調査したのがこの現場でした。夏の夕暮れ、発掘作業終了後に総担当者のHさんと共に現場を点検していたところ、工事掘削地区壁際に木簡土坑を発見、これがあの長屋王家木簡溝を発掘する契機となったことは、今でも鮮明に思い出されます。

その後も長屋王家木簡溝(北端)、二条大路木簡溝と藤原麻呂邸跡、前期式部省と神祇官、藤原京左京七条一坊等、木簡出土・木簡関連遺跡の調査に多く携わりました。星の巡り合わせなのでしょうが、私のテーマとしている冶金関連遺跡調査にはあまり



林部長・杉山副所長・小池センター長(左から)